

令和2年度 指定管理者モニタリング結果及び評価表

1 施設の概要

施設名称	松本市心身障害児通園施設「しいのみ学園」		所管課 TEL	こども福祉課 33-4767					
所在地	松本市双葉4番16号		設置年月	昭和46年4月					
施設設置目的	心身障害児に対し、母子通園・単独通園により、療育相談や生活訓練を行い機能回復を図る。								
施設概要・設備	松本市総合社会福祉センター1階 259.19㎡								
指定管理者名(選定方式)	社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 (特命)								
指定期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日(3ヶ年)								
指定管理者の 主な業務	障害児の相談及び指導、障害児の療育及び訓練、送迎車両の管理及び運行								
利用料金制の導入	あり 利用料金制(独立採算)								
施設の利用状況	利用区分等	利用目標	利用実績	対目標比(%)	対前年比(%)				
	通所延べ人数	2,000	2,073	103.7%	80.0%				
	放課後等デイサービス利用延べ人数	100	174	174.0%	108.1%				
	(特記事項) 利用者平均8.94人/日(放課後等デイサービス平均 0.75人/日)								
事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和2年度)				市の収支				
	収入 (歳入)	年度計画額		収支実績額		令和2年度決算		令和元年度決算	
		項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額
	指定管理料	0	指定管理料	0	指定管理料	0	指定管理料	0	
	事業収入	22,410,000	事業収入	23,827,593	国庫補助金	11,717,056	国庫補助金	14,479,718	
	県費補助金	580,000	県費補助金	548,000	県費補助金	5,858,528	県費補助金	7,239,859	
	市補償金	0	市補償金	411,105					
	拠点区分間繰入金収入	106,000	拠点区分間繰入金収入	104,000					
	繰越金	12,945,000	繰越金	12,944,727					
	自主事業収入	620,000	自主事業収入	195,210					
雑収入等	232,000	雑収入等	195,400						
計	36,893,000	計	38,226,035	計	17,575,584	計	21,719,577		
支出 (歳出)	人件費	20,934,000	人件費	19,567,703	新型コロナ関連補償金	411,105			
	事業費	951,000	事業費	572,253					
	事務費	2,387,000	【内訳】・保健衛生費・教養娯楽費						
	負担金	1,000	・教養娯楽費・燃料費・消耗器具備品費						
	固定資産取得支出	504,000	・保険料・車輦費・雑支出						
	拠点区分間繰入金支出	5,521,000	事務費	1,877,319					
	予備費	6,595,000	【内訳】・福利厚生費・諸謝金・旅費						
			・研修費・消耗品費・印刷製本費・修繕費						
			・通信費・委託費・手数料・租税公課						
	計	36,893,000	負担金	700	計	411,105	計	0	
		固定資産取得支出	501,100						
		拠点区分間繰入金支出	5,521,000						
損益	0	計	28,040,075	差引	17,164,479	差引	21,719,577		
(特記事項)									

2 市(所管課)による評価

指定管理者の事業計画書(提案書)の内容に基づいて、その水準が達成されているかを市が点検・評価するものです。
 評価の手段は、実績報告書(毎月)及び事業報告書(年度終了時)の点検並びに立入検査(随時)等によるものです。

評価の基準	
A	(1.0) 高いレベルで実施されており、高く評価できる。
B	(0.7) 事業計画書(提案書)どおり適切に実施されており、問題は見られない。
C	(0.5) 事業計画書(提案書)どおり概ね実施されていたが、一部に不適切な部分の確認され、改善に向け対応中または対応済みである。
D	(0.0) 不適切な部分の確認されたので、改善を指示したが、未対応または改善の見込みがなく、指定管理者の取り消しを含め検討する必要がある。

小計
71.4

大項目	中項目	評価項目	配点	評価	評価の根拠
管理基準対応	市民の平等利用	1 合理的な理由なく利用者を制限や優遇するなど、市民の平等な利用を妨げていないか	2	A	公平性が確保されていて、利用を必要とする児童が利用できている。アンケートからも問題は見られない。
	職員の労働条件	2 労働関係法令等を遵守し、業務従事者の正当な労働条件を確保しているか	2	B	労働条件モニタリングチェック項目により確認したところ、業務従事者の適性な労働条件は確保されている。
	危機管理対策	3 災害時や緊急時等に適切な対応がとれる体制となっているか	2	B	関係機関への連絡方法等が整備されており、組織的に対応できる仕組みが整っている。
		4 指定管理者の責に帰すべき事由による損害賠償等のリスクに対応しているか	2	B	日々の職員ミーティングで利用児童の心身の状況を共有しヒヤリハット事故発生防止に取り組んでいる。
	個人情報保護	5 個人情報等や業務上知り得た秘密の保護について、書類・電子データ等のセキュリティ対策を講じているか	2	B	利用契約書の中に個人情報の保護が明記されており、また電子データの管理も法人全体で対策に取り組んでいる。
	情報公開	6 情報公開や監査請求を理解し、適切な対応を行っているか	2	B	法人本部を含め複数の職員で経理を管理。決算情報は公開しており、監査請求に対処できる内容になっている。
管理能力	団体の概要	7 団体の経営状況は良好であり、経営の安定性を欠く点はないか	4	B	債務超過ではなく、流動比率も100%以上である。損失額も改善傾向にあり年々損失の額は減少している。
		8 当該施設管理運営をサポート・バックアップする体制はあるか	2	B	同一の建物内に法人本部がある。また医療・福祉の様々な専門資格を有する職員が配置されていて支援体制は確立されている。
	管理運営	9 市が示す設置目的及び施設運営方針を理解し、仕様書に示した業務を適切に行っているか	5	B	設置目的、管理運営業務を的確に理解した事業計画となっており、適切に計画が履行されている。
		10 市や関係団体等と緊密に連携し、責任を持って事業に取り組んでいるか	3	B	市とは相互に連絡がとれ情報共有が図られている。また協力医療機関とも必要時連携がとれている。
	組織・体制	11 職員体制や配置人員は適切であるか	3	B	勤務表や実績報告書にて、利用者数に対して配置基準を満たす職員配置がされていることを確認した。
		12 現場責任者、有資格者の配置、指揮系統や責任権限は適切であるか	2	B	園長が、児童発達支援管理責任者の資格を有し、指揮系統や責任権限も明確にされており、問題はない。
	働き方改革の推進	13 働き方改革に積極的に取り組んでいるか	2	A	ノー残業デー、ワークライフバランスデーの実施、事務の効率化等の意識改革を進め長時間労働の削減に努めている。
	職員研修・人材育成	14 職員研修計画や業務指導に関し、適切に実施されているか	2	A	計画的な研修の成果により、アンケートの「職員の専門性は適切か」で「はい」が100%であった。
	経理及び事務処理等	15 会計処理の基準等に基づき、適正に事務処理が行われているか	3	B	複数の職員によって会計処理の確認がされた後に支払いを行っているため問題はない。
		16 業務の第三者委託の範囲、委託先は適切に実施されているか	2	B	市の要求水準内の施設管理業務のなかで第三者へ委託する業務はない。水準を超えるものは法人が一括し委託している。
		17 業務報告や事業報告を適切に作成し、期限までに報告されているか	3	B	事業ごとの事業内容、利用実績が分かる報告書を提供月の翌月に適切に提出されている。
安全管理	18 事故防止等の安全対策は明確で、職員の教育・訓練は実施されているか	4	B	救急法、心肺蘇生法、AED操作講習の実施を計画的に行い、職員の教育をしている。	
施設の運営	業務内容	19 管理区域、業務範囲についての的確に把握し、適切に管理運営を行っているか	4	B	日常の巡回・清掃等適切に行われており、管理区域や事業範囲についてほぼ的確に把握できている。
		20 施設の設置目的を把握し、施設の効用を最大限に発揮する事業運営を行っているか	5	A	適切な事業運営がされており、アンケートでは「支援に満足している」との回答が100%であった。
		21 年間の事業量が適切に実行されているか	3	A	事業量が適切に実行されており、アンケートでは年間開園日数について「現状で良い」との回答が87.3%であった。
	地域との連携	22 地域の住民や団体等との連携に積極的に取り組んでいるか	2	B	新型コロナウイルス感染症による制限があるなか地域の保育園との定期的な交流会の開催、実習生の受入等、実施できている。
	利用促進	23 施設の利用率の向上に努めているか	4	B	1日の定員が決まっているが、利用者が継続して利用ができるような声かけ等を積極的に行っている。
	利用者サービス向上	24 利用者の利便性や満足度を高めるため、具体的な方策を講じているか	5	A	活動プログラムを固定化しないよう配慮をされており、アンケート回答でも「工夫されている」が93.7%であった。
	障害者等への配慮	25 障害者、子ども、高齢者等の利用に配慮した管理がなされているか	3	A	施設の特性から障害児に配慮した管理がなされている。
	苦情・要望等への対応	26 利用者アンケート等を適切に実施し、苦情や要望、意見等に適切に対応しているか	3	A	毎月行っている個別懇談会で利用者からの要望等を聞きとり、併せてアンケート調査を実施し業務改善に取り組んでいる。
	セルフモニタリング	27 セルフモニタリングが適切に行われているか	3	A	毎月提出される実績報告書から、セルフモニタリングは適切に行われている。
環境への配慮	28 エネルギー削減等の具体的な目標を定め、その達成に向けて取り組んでいるか	2	B	省エネルギー・省資源・事務用紙等の廃棄物削減など環境への配慮に積極的に取り組んでいる。	
経済性	経費削減・業務効率化	29 経費削減や業務効率化に取り組んでいるか	5	B	役割分業による業務の効率化に積極的に取り組んでいる。
	事業報告及び決算	30 支出総額は事業計画書の範囲内か、又事業計画とおり収入が確保できたか(又は、利用者を確保できたか)	4	B	事業に関する支出は事業計画書の範囲内。収入は利用者数が安定していたため見込額を上回った。

3 利用者による評価

(協定書で指定管理者に実施を義務付けている利用者アンケートの内容)

利用者アンケート	実施時期	令和3年2月24日(水)から3月12日(金)
	調査対象	通所児童の保護者
	調査方法	アンケート用紙配布し、施設内の回収箱で回収。
調査結果	別紙のとおり	
利用者からの意見 要望・苦情等	別紙のとおり	

4 指定管理者による自己評価

令和2年度の 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で利用者(園児・保護者)の健康を守ることを第一優先にして事業を実施した。 ・手洗いの徹底、利用者・職員全員の検温実施、問診による健康チェック、室内の衛生管理、こまめな換気など、感染予防対策を徹底した。 ・感染が拡大していた時期(4月・5月)には市と協議し、密を避けるために、一日の登園人数を制限する、呼吸器系の疾患がある児童に対しては登園を控えてもらうなどの対応を行った。
要望・苦情への 対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を見極め、対策を講じながら、できる限り、通常の療育や行事を実施できるように努め、園児の成長発達を促し、楽しい体験ができるように取り組んだ。 ・コロナ対応やトイレの改修工事で、利用児童に不便をかけたか、協力をお願いすることが多かったが、その都度、こまめに説明を行い、通知文を配布して周知を図るなどして、理解を得られるように努めた。
今後の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策は、引き続き徹底していき、安心して利用していただける環境を整えていきたい。 ・近年、松本圏域にも新たな児童発達支援、放課後等デイサービスの事業所が増加してきている。心身障害児、医療的ケア児の受入れ、理学療法士、看護師の常駐など、事業所の特性を活かし、関係機関との連携、情報交換を行い、療育を必要としている児童の掘り起こしに努めていきたい。

5 市(所管課)による総合評価

総合評価 (4段階評価) の基準	
A	(1.0) アンケート調査結果、セルフモニタリングの内容等を含め、総合的観点から高く評価できる。
B	(0.7) アンケート調査結果、セルフモニタリングの内容等も含め、総合的観点から標準を満たしていると評価できる。
C	(0.5) アンケート調査結果及びセルフモニタリングの内容等、標準を満たしているが、今後改善を必要とするところがある。
D	(0.2) 改善すべき点が多く、標準に達しないと判断する。

【自主事業を実施している場合の評価】
タイムケア事業を実施し、指定管理業務の利用児童の兄弟姉妹を受入れることで、利用を必要としている利用児童の継続利用ができ、保護者の負担軽減も含め相乗的な効果を生み出している。

【個別施設ごとのテーマに対する評価 ※設定がある場合】
個別テーマの設定無し。

【総合的な評価】
新型コロナウイルス感染症の影響を受け利用児童に安全な療育の提供を行うことに例年よりも配慮が必要な1年間であった。
しかし、利用者へのアンケート調査の結果をみても例年同様、利用児童及び保護者から高い評価を得ている。
松本圏域内に重症心身障害児、医療的ケア児の受入れが可能な事業所が少ないなか、設置目的を理解した運営を実施していた。セルフモニタリングのなかでも職員体制の強化を掲げていて、質の高いサービス提供にむけた意欲が評価できる。
新型コロナウイルス感染症に対するリスクマネジメントと必要な療育の提供の両立ができたのは、指定管理者としての豊富な実績と組織的な対応を実施する法人運営によるものと評価ができる。

配点	評価
10	A
点数	10

合計点数
81.4

判断の基準	
75点以上	「良好」
60点以上75点未満	「適正」
45点以上60点未満	「要改善」
45点未満	※「不可」

※「不可」の場合は、指定管理者の取消処分を含め、早急な改善対応の検討が必要

判断結果
良好

【別紙】

3 利用者による評価

利用者アンケート	実施時期	令和3年2月24日(水)から3月12日(金)
	調査対象	通所児童の保護者
	調査方法	アンケート用紙配布し、施設内の回収箱で回収。
調査結果	実施状況	通所児童の保護者28名の内21名に配布（4名は利用開始から3ヶ月未満のため、3名は長期未利用であるため配布せず） 回答者16名（回収率76.2%）
		<p>○活動等のスペースは確保されているか はい100%</p> <p>○職員の配置数や専門性は適切か はい100%</p> <p>○事業所の設備は整備されているか はい100%</p> <p>○清潔で心地良く、活動に合わせた環境か はい93.7% どちらともいえない6.3%</p> <p>○ニーズや課題を踏まえた支援計画となっているか はい93.7% わからない6.3%</p> <p>○計画に具体的な課題や支援内容が設定されているか はい93.7% どちらともいえない6.3%</p> <p>○支援計画に沿った支援が行われているか はい93.7% どちらともいえない6.3%</p> <p>○活動内容が工夫されているか はい93.7% わからない6.3%</p> <p>○地域との交流や関係機関との連携はあるか はい62.5% どちらともいえない18.8% いいえ6.3% わからない12.5%</p> <p>○運営規程、利用者負担等について丁寧な説明があったか はい93.7% どちらともいえない6.3%</p> <p>○支援計画、療育内容について丁寧な説明がされているか はい93.7% どちらともいえない6.3%</p> <p>○家族支援プログラムが行われているか はい87.5% どちらともいえない6.3% わからない6.3%</p> <p>○児の発達状況や課題について職員と共通理解ができているか はい100%</p> <p>○定期的に面談や助言等の支援が行われているか はい93.7% どちらともいえない6.3%</p> <p>○保護者同士の交流の機会や連携が支援されているか はい93.7% いいえ6.3%</p> <p>○相談に対して速やかな対応があるか はい93.7% どちらともいえない6.3%</p> <p>○職員との意思疎通、情報伝達への配慮はあるか はい93.7% わからない6.3%</p> <p>○定期的に活動概要や行事予定、業務に関する自己評価が発信されているか はい100%</p> <p>○個人情報を守られているか はい93.7% どちらともいえない6.3%</p> <p>○緊急時、防犯、感染症等の対応について周知・説明がされているか はい68.8% どちらともいえない31.3%</p> <p>○定期的に避難訓練が行われているか はい56.3% どちらともいえない12.5% いいえ12.5% わからない18.8%</p> <p>○子どもは通所を楽しみにしているか はい93.7% わからない6.3%</p> <p>○事業所の支援に満足しているか はい100%</p> <p>○単独通園はあった方が良かったか はい100%</p> <p>○年間開園日数について 現状が良い87.3% 多い6.3% 少ない6.3%</p> <p>○今後も利用したいか はい100%</p>
利用者からの意見 要望・苦情等		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が止められないことが多い。(施設利用者以外の駐車が多すぎる。) ・エアコン(暑さ・寒さ)の調整ができるようになって欲しい。 ・防犯についてどのような対策があるのか知りたい。 ・災害時の交通障害等で保護者が迎えに来られない場合の想定を知りたい。 ・(非常災害の発生に備えた避難訓練等)訓練の実施機会があれば参加したい。 ・事業所の支援にとっても満足している。 ・お迎えの時、他利用児の兄弟と関われる機会がある。 ・家庭内では気付かなかったことや様々な経験をさせてもらいうれしいです。 ・今後も楽しく通園させていただきます。 ・毎週楽しく通らせていただいています。お迎えの時に子どもの様子を聞くことが楽しみです。 ・放課後等デイサービスの実施日が増えて多くの子が利用できたら本当にありがたいです。 ・放課後等デイサービスの定員を増やしてほしい。 ・学校に進学しても引き続き子どものサポートをしていただきたい。